

鉄道の安全をどのように追求していますか？

JR東日本では、会社発足時より「安全」を経営の最優先課題として位置付け、取り組みを進めてきました。2004年度以降も新しく策定した「安全計画2008」のもと、世界一安全性の高い鉄道をめざして取り組みを継続していきます。

安全な鉄道の追求

安全計画2008

JR東日本は、会社発足以来3回の安全5カ年計画を策定・実践してきました。2004年度以降の5年間は「お客さまの死傷事故・社員(グループ会社なども含む)の死亡事故ゼロ」を目標に、「原点への回帰そして安全への再挑戦」をスローガンにした「安全計画2008」のもと、約4,000億円の安全投資を実行するなど、より安全性の高い鉄道の構築をめざし取り組んでいきます。

踏切・駅での取り組み

2003年度に発生した鉄道運転事故は96件で、会社発足以来最少となりました。このうち踏切事故は、46件発生しました。今後も障害物検知装置や大口径遮断かんなどのさらなる充実や、「踏切事故防

止キャンペーン」などを積極的に実施していきます。

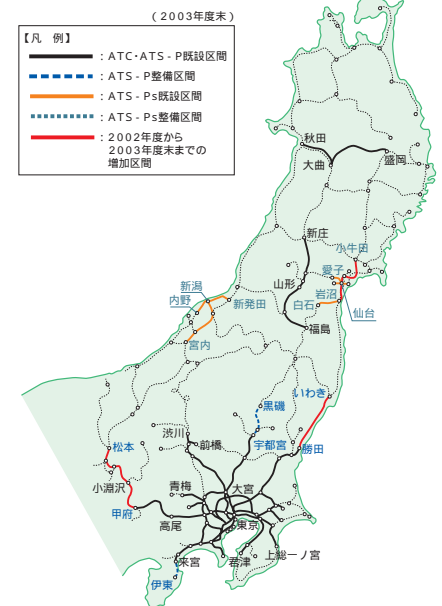
鉄道人身障害事故²は47件で会社発足以来最少の発生件数となりました。これはホームにおけるお客さまの安全を守るために、戸挟みセンサーや転落検知マット、視覚障害者誘導用ブロックなどを設置した効果および1999年度から実施している「プラットホームキャンペーン」などの取り組みの成果と考えています。

列車運転での安全性の確保

JR東日本では列車運転の安全性を確保するため、さまざまな最新技術を導入しています。例えば、列車のスピードを自動的にコントロールするATC(自動列車制御装置)をデジタル化し、スムーズな減速を可能にするデジタルATCの導入を進めています。同時に、停止信号までに自動的に列車を停止させる自動列車

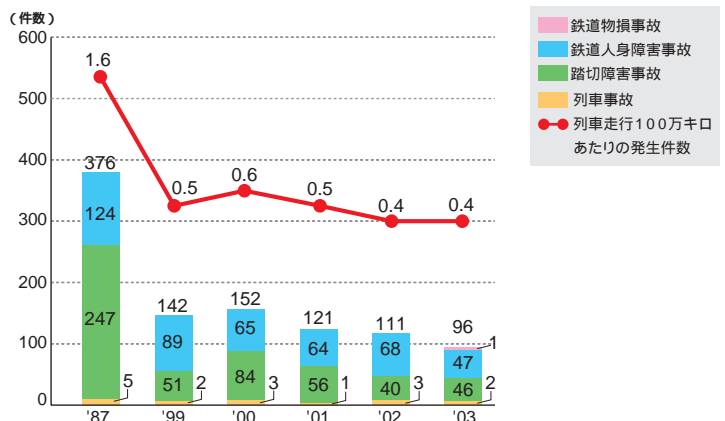
停止装置、ATS-PとATS-PSの整備も進めております。

ATC、ATS-P、ATS-PSの整備状況



駅のホームでは、転落検知マット(左)や緊急停止スイッチ(右)のほか、さまざまな安全対策を講じています

鉄道運転事故の発生状況



1 安全計画2008

<http://www.jreast.co.jp/safe/index.html>

2 鉄道人身障害事故

列車または車両の運転により人の死傷を生じた事故をいう。

保守作業のシステム化

JR東日本では設備保守の一環として、2002年に「新幹線電気・軌道総合検測車」(East-i)を導入しました。これにより、新幹線・在来線区間の列車高速走行時における検査の安全性、効率および精度が向上しました。

また、東京圏の主要線区にATOS(高密度運転線区用の運行管理システム)を導入し、保守作業者がハンディ端末を使用して作業エリアを特定することで、その区間への列車進入を防ぐなど、保守作業時における安全性を確保しています。

安全教育の実施

JR東日本総合研修センターおよび各支社の総合訓練センターでは、さまざまな実設訓練機器を使用して、安全システムのしくみや安全を確保するためのルールなどを教育しています。また、2002年11月には「事故の歴史展示館」を設置し、過去に発生した事故の教訓や安全の大切さ、社会的責任について教育しています。



各支社の総合訓練センターでは実践的な安全教育を実施しています

地震発生時における安全の確保

JR東日本は、首都圏にて運用されている大地震発生時における列車一斉停止システムを、2004年度までに首都圏以外の在来線にも拡大導入することを決めました。

これは、沿線に配置された地震計のうち2カ所以上で一定以上の揺れを感知した際、自動的に周辺地域内の走行列車に無線で緊急停止情報を伝達し、速やかに停止させるシステムです。これにより、大地震発生時の被害拡大を最小に抑えることができます。

安全に関する技術開発

JR東日本では1999年より、踏切事故を防ぐための新しい技術として、画像処理技術を活用した大型支障物検知装置の開発を進めています。

低コスト化してきた画像処理技術を利用することで導入箇所も可能になります。

これまでの現地試験(霧、豪雨、積雪環境の試験を含む)では良好な検知性能を得ており、現在は実用化時の安定稼働の検証として雷や高温の影響に関する試験を行っています。

防災訓練の実施

JR東日本では、大規模災害の発生に備えた体制づくりを進めています。防災訓練を定期的実施しており、2003年9月1日の総合防災訓練には1.2万人が参加しました。また、お客さまの安全確保に関するマニュアルを作成するとともに、研修を通じた社員の教育も随時行っています。



9月に実施した防災訓練

ジェイアールバス関東株式会社における飲酒運転について

2003年8月18日に、ジェイアールバス関東(株)の乗務員が飲酒運転を行った事件が発生しました。これは、運輸事業者として絶対に起こしてはならない事件であり、皆さまからの信頼を裏切ってしまったことを、深くお詫びいたします。

事件発生後、同社およびジェイアールバス東北(株)では、他社に先駆けて、出発・到着時のアルコール検知器チェックの完全実施、管理者による添乗指導の強化などの対策を実施しています。さらに、新たに策定した安全5カ年計画に基づき、飲酒運転撲滅を含めたバスの安全対策を今後継続的に推進していきます。